

奇妙な花粉症 (3)

桜が咲き始めました。新入学、進級、新入社、など晴れがましい時期に、桜は満開に咲きほこり、祝辞を送ってくれているようです。数年前までは花見に行き、目が痒い、くしゃみ、鼻水、鼻づまり、咳などが出てきた、と来院される方がいらして、原因を調べてみるとやはり桜花粉症でした。桜花粉の検査液は無いので、桜花粉を集めに行き乾燥させてサンプルとして用いていたのです。桜花粉症を持っておられる方は花見にも行けないよ、と嘆いていました。ところが今は、花見に行けるのです。花が咲いたときには、その花の花粉症は起こらないのです。禅問答のようですが、これまでお伝えしているように昨年、スギ花粉がはじまり、注意報が出され、減少していくまでの間、スギ花粉症の方は一人もおいでではなかったのです。スギ花粉症だとおいでになった方の原因を調べていきますと、イネ科などが主だったものでした。その後も花粉の飛散と花粉症の乖離は続いていきました。一体これは何なのだろう、もしかして何かの妄想に囚われているのかしらん、と思うことも有りましたが何度調べても、実際に乖離しているのです。今年、スギ花粉の飛散期にスギ花粉症がみられなければ、地球と人類は明らかに変化したのだと確信をもって言えると思っていたのですが、昨年と同じように、スギ花粉情報が出ましても、スギ花粉症の方はいらっしやいせんでした。イネ科の方が多かったです。実はスギ花粉症は8月と12月にすでに出ていたのです。

花粉が飛散する前に、花粉の準備が木や草の中で行われる時に、見えない何かをキャッチして、人はその花粉の飛散に備えるのだと思うのです。その症状は通常、2~3日から長くて10日くらいかかります。その時に、花粉によるアレルギー反応を、阻止する抗体を創るのではないかと、推測しています。人は花粉という「物」ではなく、「気」や「気配」のようなものを感じ取る能力を、全員が獲得したのだと思うのです。微かにではなく、しっかりと受け取れるようになったのだと思います。このことはやはり、地球と人類の進化の一つではないでしょうか。お花見に行ける、花粉症が軽くなるなど良い事ばかりではありません。物質的なものではないもの、心に思っている事、怒りや嫉妬、攻撃、感謝、感動なども他の人に伝わり、影響を与えるものと思います。ですから人は、今まで以上に、自分の思い、想念に責任を持たなければならないようになったのだと思うのです。心に思っているだけなら何を思っても他人にはわからないし、迷惑もかけないのだ、ということは通用しなくなってきているのではないのでしょうか。新しい段階で人は試され、鍛えられて、発達していくのでしょうか。

皆様は、いかがお考えでしょうか。異論もおありでしょうが、以上は花粉症の変化から、私が学んだ事です。